

田中家通信



株式会社 田中家石材

VOL. 46
発行 株式会社 田中家石材
住所 彦根市高宮町1-08-1
電話 0749(0)5888
HP: https://www.tanakaya-sekizai.com/
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

お盆には
先祖様は
手を合わせまじよう

お盆とは、先祖の霊があつた世から帰ってきて家族と楽しいひとときを過ごし、また帰っていくという日本古来の信仰に基づく行事です。

「旧暦」の正式名称は「太陰太陽暦」といいます。この「太陰」とは、「月」のことをさす古い中国の言葉です。

太陰暦は自然現象としての月と深い関係があります。旧暦のお盆の中心「七月十五日」は自然現象の月との関係で

野菜と仏法と
わたしの暮らし

暮らしの中で、食べ物へのまなざしが変わってきた。スーパーに並ぶ色鮮やかな食べ物。その裏に潜む農薬や添加物に、これでいいのかと思いついた。私たちの身体は、日々口にするものでできている。その当たり前に、ようやく気づかされた。

そんな折、知人に誘われて畑を始めた。土に触れ、天候に左右されながら苗を育てる日々。

夫の形見息子に

夫の葬儀の日、息子は夫の黒い靴を履いて立派に喪主を務めた。息子はお父さん、「こんなに足がちいさかったつけ」とつぶやいた。あちらこちらに現れる夫によく似たしぐさに、涙があふれた。

お墓じまいの前に

近年、お墓を撤去される方が多くなりました。それは、後継者問題が1番の理由です。世代が変わる時を迎えて、それぞれが先祖供養のことを考える時、「迷惑をかけたくない」という理由で墓じまいを考えられます。その中で「子どもに相談したら、お墓を守っていくよと言ってくれた」と



いけば必ず満月になります。お盆に先祖の霊が戻ってくるというので、多くの地方が八月盆なのは、「月の光を頼りに先祖の霊がやってくる」という考えから、梅雨の新暦をさけ、あえて月光の美しくなる月遅れの八月盆を選んだ」という説もあります。

民族行事上の正月とされる小正月（旧暦一月十五日）も満月です。ちなみに昔の盆踊りは、満月の月明かりの元で踊りました。

その月明かりは、柔らかなく暖かい演出となり夏のお盆の思い出として、深く記憶に刻まれたことでしょう。

手間も虫もあるけれど、自分の手で収穫した野菜を食卓に並べたとき、家族が「おいしい」と笑ってくれた。その笑顔に、はじめて味わう安らぎとぬくもりを感じた。

仏教に「身口意」という言葉がある。何を食べ、何を語り、どのように受けとって生きていくのか。小さな意識の変化が、やがて社会の風景をも変えてゆく。畑の土と香は、そうした気づきを静かに開いてくれた。

普門寺住職 木本晃英

四十年前程前、二人の娘の後に息子が生まれた時、夫はうれしくて大声で叫んだ。息子の成長を見守った年月は、楽しく充実していた。苦勞もたくさんあったが、葬儀を仕切ってくれたので全て帳消しだ。夫も安心して旅立ってくれたと思う。

葬儀で履いた黒靴を、息子は父の形見として持ち帰った。

新聞投稿より

夫の背中につかまり

最近、車で外出した際、一人で散歩をしている夫を見かけた。その背中が一瞬、とても小さく見えた。

七十四歳になる夫は、六十五歳まで暑さ寒さに耐え働いてきた。私は六十歳の頃から腰が悪く、長時間歩くのが大変になった。でも外出は大好き。夫の上着の裾につかまって歩く時は、とても頼りがいのある背中だった。

あと何年一緒に歩けるかわからないが、夫が杖を使うようになってからも、私は夫の背中につかまって出かけたかった。



新聞投稿より

無縁佛にならない
お骨の預け先

身近な人が亡くなって初めて、お骨の供養はどうしたらいいのか。また、それにもない自分が亡くなった時は、お骨はどうなるのか。といった不安をお持ちになる方が年齢を重ねていくとともに増えてきています。

特に、後継者がおられない方は、公共・民営に関わらず、「永代供養を約束してもらえます。寺墓地・霊苑」が安心できます。

先日、祖母の三回忌の法要があった。実家を離れて暮らす私は、久しぶりに家族と顔を合わせ、近況を語り合った。

家族とは祖母の介護で言い争うこともあった。しかし、こうしてまた笑って話せるのだから不思議なものだ。

私にとって家族は大切な存在だと改めて思った。

「星を見るなら、寒く長い冬の夜が一番」生命にかかわる危機―自動車事故や天災、大病―を乗り越えた人は、人生観の変化を語ります。愛する者を失う悲しみも同じこと。耐えぬいた暁には、本当に大切なことが見えるようになるのです。暗くなれば、星が見える。チャールズ・ピアード(アメリカの歴史家)

感謝を伝える
言葉、ありがとう

私達は、感謝の気持ちを表す「ありがとう」という言葉を使わします。

「ありがとう」と言う言葉は「有る」ことが難しいと書き、それは「あり得ないこと」が「めったにないことを感謝する」の意味で使われるようになりました。日々の生活において「あたり前であること」は一つもありません。

「この世で最も不幸な人は感謝の心のない人である」と言われます。何をしてもらっても当たり前と思ひ、感謝の心がなければ、不平不満ばかり出て幸せを実感することはできません。

感謝できる人が幸せなのであり、その感謝を「ありがとう」という言葉で表すと、相手も喜んでもらえてよかったです。うれしくなります。

「ありがとう」と笑顔で言い合える毎日を目指して、まずは自分から積極的に感謝の気持ちを伝えましょう。

しかし実際、墓地規約に「永代供養」と記載されていても、十三年で合葬されたり、供養される期間が長いほど割り増しの料金を請求されたという例もあるそうです。

その施設の「規約」によく目を通し、後々も自身が望む形で、きちんと供養してもらえることが確認することが大切です。



祖母や家族が私に注いでくれた愛情が、今の私を形作ってくれた。一人で生活するようになってから、誰もが祖母らと同じように家族や大切なものを守ろうと懸命に生きていることに気がついた。私も家族を守っていききたい。それが祖母から教えてもらった生き方だ。

おばあちゃん、母がいない私の愛で育ててくれてありがとう。私たちが家族を見守ってください。

新聞投稿より